

平成25年7月19日（金）

0 はじめに

先ほど、賞状伝達を行いました。4月から諸君がいろいろな分野で活躍してくれたことをうれしく思います。また、本日の伝達式には出てこなかったものの、同じように活躍してきた皆さんにも讃辞を送りたいと思います。

3学期制の学校なら、本日が夏季休業前の終業式にあたります。しかし、本校は2学期制をとっているため、終業式といった儀式的なものはありません。そのため校長先生の話もなかったと聞いていますが、この3か月半を振り返って、少しお話する時間をいただきました。

1 始業式で話したこと

まず、2・3年生の諸君。4月の始業式で、以前よりよくなったこととして、「①廊下やグラウンドで会った生徒諸君の多くが、自然で気持ちのよい挨拶をしてくれたことと②校舎がきれいだったこと」をお話しました。それは春休みに感じた正直な感想でしたが、正確に言うと「私が予想していたよりもよくなったこと」ということになります。学校には毎日いろいろなお客さんが来校されますが、諸君の多くはそういう方にもちゃんと挨拶をしてくれますし、校舎が建設されて30年近くなるのに「廊下なんかぴかぴかですね。」と言われたこともありました。お客さんは諸君のいいところを見てくれたものと思います。

ただ、毎日諸君を見ている私たちからすると、朝夕あるいは日中生徒諸君とすれ違っても挨拶や会釈をすることもなく通り過ぎる生徒がいるのも事実です。それが悪いわけではありませんが、お互いにちょっとした挨拶や会釈をした方がさわやかな気持ちになれますので、これからちょっとしてみてもどうでしょうか。

掃除についても、ほとんどの諸君はまじめにきちんとやってくれています。ただ、いくら掃除しても自然に出るほこりなども当然あります。月曜日の朝などは特に多くなりますので、諸君が昇降口から教室に行くまでの間にも、気づくことがあると思います。その日の放課後には掃除をするわけですが、朝のうちに気づいた先生が掃除をしてくださっている時もあります。諸君も気づいた時に、ちょっとした時間でもきれいにしてくれれば、気持ちよく1日を過ごすことができます。

2 学年通信について

さて、4月から今日までの3か月半、諸君には、授業に関する教材や資料などの他にも、いろんな文書が配られてきました。各学年で出している「学年通信」もその一つです。ちゃんと読んでいますか。家の人にも見てもらっていますか。私は、どの通信も楽しみにしております。毎回、主任、担任あるいは学年担任の先生方が実にいい文章を書いていらっしゃるからです。今日は、4月下旬に発行された3つの通信からの文を紹介します。

まず、1学年通信から。ある担任の先生のコメントです。「**今新学期でやることが非常に多くて忙しいのですが、苦痛どころか毎日楽しく過ごしております。**」すごいと思いませんか。やることがたくさんあるのを苦痛ではなく楽しみとしてとらえる、諸君もみならってみてはどうですか。この夏休みには、自分の不得意なところをじっくりやろうと思っていたのに、課題が多くてできそうもない、なんて思っている人がいれば、楽しみが増えたと思えばいいだけです。

2学年通信から。「和風庭園のマンサクを眺めていた私に武田三十郎先生が『マンサクの花と言えば丸山薫です』とおっしゃいました」と書いた後に、丸山薫の「まんさくの花」という詩を紹介していました。丸山薫の詩は以前は中学校の教科書にも出ていたのですが、今は出ていないのかもしれませんが。丸山薫については別の機会にお話したいと思います。この通信は「花は咲く」というタイトルで、**2年生諸君が将来花を咲かせることができるように**と書かれたものでした。2年生諸君、覚えていますか。

そして3学年通信から。「明日のための種」というタイトルで、震災直後の福島県のあるハウレンソウ農家の話で、次のような内容でした。

風評被害で全く売れないのにハウレンソウを作り続けているその農家は、記者から「なぜ無駄になるようなことをするのか」とたずねられ、「今は売れる状況ではない。でも状況が劇的に変わるかもしれない。その時、作っていなければ提供できない。**私は今のために生産し続けるのではなく、将来のために種を蒔き続けるのだ。**」と答えた、というものでした。そしてこの話を紹介した先生は、生徒諸君へ「成果はいつ出るか誰にもわからないが、絶対将来につながる営みである。皆は信じていまのまま努力を続けてかまわない。」と激励の言葉をよせていました。

夏季休業前に配られる「学習の指針」にもよい文章が書かれていますので、よく読んでおいてください。

3 陸前高田^{たかた}市長の講演から

先週、盛岡市で東北の高校の校長先生方の会議があり、陸前高田市長の講演を聞く機会がありました。陸前高田市は、岩手県南東部の太平洋岸に位置する町で、東日本大震災による津波で壊滅的な被害のあった町であることは、諸君も覚えていると思います。市庁舎（市役所の建物）は壊滅し、JRの駅舎も5つのうち4駅が流失し、線路、道路、そして多くの民家も流されたそうですが、2年4か月たった今も、状況は変わっていないということでした。

市長（戸羽 太さん）は、陸前高田の市会議員を務めた後、副市長に就任し、2011年の市長選挙に出馬し、初当選を果たしました。しかし、その1か月後に東日本大震災が起こったわけです。大震災で市長の奥さんが行方不明となり、4月上旬に死亡が確認されたとのことでした。市長は、奥さんを失いながらも、市の復旧・復興に努め、同時に震災当時小学生だった二人の息子さんを育てていくことになりました。そんな市長さんから、学校にもどったらぜひ生徒さんに伝えてほしいと言われたことがありました。

一つは「**あたりまえのことに感謝してほしい**」ということでした。市長は出張から家に戻る時、必ず奥さんに電話して、何時頃になるか、夕ごはんはいるかなどを連絡していたそうです。そのくせがぬけず、今も電話をかけそうになることがあり、孤独感を感じると同時に、当時ごはんを作ってもらったのはあたりまえと思っていたのに、本当はとてもありがたいことだったと初めて気づいたと話しておられました。そして、ごはんがさめていたり、おかずが前の日と同じだったりしただけで文句を言うような高校生や中学生がいるとしたら、とんでもないことだと言っておられました。諸君の中には、自分で食事を作る人もいますが、多くは作ってもらっていることでしょう。今日から、「おいしかった」の一言でも、感謝の気持ちを表してみてください。

もう一つは「**相手の立場を考えることができる**」人間になってほしいということ。震災当時4年生だった市長の下の息子さんは、今年中学生になりました。母と友達を失った子どもにとっては、今もショックは残っているはずなのに、少しずつ困難を乗り越えられるようになってきたそうです。自分もつらいのに、「〇〇君は、ぼくよりもたいへんなんだ」と、友達の立場で考えることができるようになったとのことでした。中学生や高校生が相手の立場を考えることができる人間になってくれれば、いじめなどはなくなるだろうと、これは市長としてよりは父親としてのコメントとして諸君に伝えたいと思います。

4 おわりに

おわりに、夏季休業前としては、今日が最後の授業となりました。

といっても、明日からは講習があります。また、3年生にとっては夏の陣、1～2年生にとっては、部活動や合宿・遠征などで忙しい夏になると思います。詳しいことは、それぞれの学年やクラスであると思いますが、夏季休業中は、勉強や部活動の他にも、ふだんあまりできないことを何かやってください。読書、家の手伝い、地域の行事への参加、ボランティアなど何でも結構です。勉強も部活動も大事なことです、こうしたことも大事なことです。

夏休み明けに、また、元気なみなさんと会えることを祈念し、私の話を終わります。